

物価指数研究会（第24回）議事概要

- 1 日 時 令和6年2月6日（火） 10：00～11：30
- 2 場 所 総務省第二庁舎7階中会議室又はWEB会議形式
- 3 議 題 (1) 2020年基準消費者物価指数 外国パック旅行費指数の取扱いについて
(2) 2025年基準改定に向けた検討について
(3) その他
- 4 出席者 (委員等) 西郷座長、會田委員、樋田委員、元山委員、阿部審議協力者、斎藤審議協力者、清水審議協力者、美添審議協力者
(統計局) 小松調査企画課長、大澤消費統計課調査官、赤谷物価統計室長ほか
- 5 配布資料
書類番号1 2020年基準消費者物価指数 外国パック旅行費指数の取扱いについて
書類番号2 2025年基準消費者物価指数 改定スケジュール及び追加品目の検討について（案）

6 主な意見等

議題1 外国パック旅行費指数の取扱いについて

- 案①（直接接続）の方が良い。基準時からの価格の動き、乖離についてウェイトを用いて集計することがCPIの計算方法であり、前年同月比はあくまでそこから計算されたものである。前年同月比を重視する考えは同意できるがCPIの役割はそれだけではない。前年同月比を重視するニーズのために対応するのではなく、あくまで日本の物価動向（外国パック旅行費指数の水準）を記録に残すことが大切である。
- 外国パック旅行費指数のウェイトからみて総合指数への影響は小さいと思うので、案①とした場合の断層はあまり心配しなくてよいのではないかな。
- 去年のうちに遡及改定するべきだった思いが強い。その上で現実的に考えれば、案①の方が良いのではないかな。CPIはGDPなどの他の経済変数との比較にも使われるため、案②のようにコロナ禍前と外国パック旅行費指数の水準が変わらず上昇要素が出ない方が問題として大きい。（案①によって）指数が急上昇するのはやむを得ないのではないかな。
- 国際マニュアルの作成に携わってきた立場から言えば、どちらの案で結論を出しても正しいと言える。もっと速やかに反映するべきだったという意見もあるが、一方で一度公表すれば修正できないため、統計局はしっかり検討して公的統計として信頼ある指数を公表する立場であるべき。どの段階で反映するべきだったのかについては、将来に向けて検証すれば良

い。今回の方針については統計局が過去に行ってきた処理との整合性を踏まえて対応すれば良いのではないかと。

- 指数水準が適切に保たれるという意味では案①の方が良いのではないかと。
 - ユーザーにとって指数水準と前年同月比は両方必要であり、両案とも正しい考えである。非常に難しい問題だが、案①の方が統計局の姿勢としてユーザーに受け入れられるのではないかと。きちんと検討しているので統計局として無為無策ではなかった旨を小さな論文などを通じてユーザーにアピールすることが大切である。そうすることで信頼を得ることに繋がり、（方針を）受け入れられやすいのではないかと。
 - 長期に欠測した品目の扱いについてどう扱うべきか、最終的な結論には相当時間がかかる。今後の検討課題として、学識有識者と一緒に研究し、国際会議などで発信できればよい。
- ⇒ 今後、類似の事態に備えて学識有識者の知見をお借りしながら事後検証していきたい。
- 統計局は対外的にずっと答えていく立場になるので、ユーザーが納得できる対応をお願いしたい。

⇒ 様々な意見をいただき感謝。統計局としてもどちらの方が正しいという議論ではないという認識。総合指数への影響の捉え方等、ご意見を踏まえながら結論を出したい。

議題2 2025年基準改定に向けた検討について

- 品目改定の方針案に異論はないが、分類で気になる点がある。自動車等関係費には自動車関係以外の品目も含まれるのか。
- ⇒ 「自動車“等”」の「等」には多種多様な品目が含まれており、例えば自転車用品も含まれる。
- 基準改定において消費者物価指数の品目分類構成そのものは見直さないのか。
- ⇒ 消費者物価指数の品目分類の構成は、家計調査の収支項目分類と対応する形を採用している。なお、家計調査では、消費者物価指数の基準改定と並行して、収支項目分類見直しの検討を行っているところ。
- 基本的には従来どおりの対応ということで理解した。追加品目の調査は2025年1月開始とのことだがスケジュールに問題はないか。
- ⇒ スケジュールは過去の改定を踏まえて設定しており、問題なく進んでいる。
- 品質の均一性担保が困難な品目もある中、統計局は苦勞して（なるべく品質の均一性が担保されるよう）銘柄を選定しているので、そういった作業の必要性について公開していないならばウェブサイトに掲載した方がよい。